

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かれ合い

No.63

共に生きる

発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

むつき
睦月
1
2016



防府天満宮参道口

2016年
今年もよろしくお願い申し上げます

日本漫画家協会
日本漫画家会議

にしやま すすむ
西山 達

2016年 戦争法廃止に向けた署名を広げよう

■ 暴走する安倍政治の終焉を

いま「戦争法の廃止を求める統一署名」運動が全国で展開されています。目標は2千万署名で、相当なエネルギーの必要とする取り組みですが、いまこの署名運動が戦争を引き起こさないためにどうしても必要です。それは、2015年9月15日の参議院での強行採決された法案(平和安全保障関連法案)が、現憲法9条の禁止している「国際紛争解決のための武力行使を放棄する」ことに相反することが明らかだからです。良識ある日本国民が、この安倍政権の强行採決を認めるわけにはいかないと声を上げるのは当然のことです。平和の名をいくら語っても、その中身は明らかに“戦争のできる法律”です。私たちは忘れません。6月4日の衆議院憲法審査会で、与党推薦者を含めた憲法学者3人が「憲法違反です」と答えました。これに衝撃を受けた安倍内閣は、强行突破をもくろみ実行に移したのです。

どのような内閣であれ、日本国憲法に則つて国民を安全と平和な生活へ導くことが課せられています。

**アベ政治と
辞めよう**

**「市民連合」発足で
野党は共闘」の広がりも**

1月の講演・集会案内

- ◆1月8日(金)戦争法廃止JR黒崎駅前行動 …18時
- ◆1月15日(金)戦争法廃止JR黒崎駅前行動 …13時
- ◆1月19日(火)戦争法廃止 JR小倉駅前行動 …18時
- ◆1月23日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC) …14時
- ◆1月30日(土)講演「沖縄基地問題の深層と民主主義」
琉球新報論説委員 松本剛氏

※詳しくは3面 (北九州生涯学習センター) 13時30分

- ◆2月6日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第12条 ないしょの話し

自分の暮らしや家族、手紙や秘密をかけてあばかれ、名誉や評判を傷つけられることはあってはなりません。そういう時は、法律によって守られます。

1月11日(月):イチイチ祈りの会

カトリック
黒崎教会聖堂、午後1時30分～
どなたでもお出でください。

戦争法廃止の2千万署名を共に広げよう

国民こそ権威者です。その国民から、権力の行使をさずかっている政治権力者(今は安倍政権)は国民一人ひとりをしあわせにする義務を負っています。しかし立憲主義を否定し、国民の圧倒的な平和の声を無視する民主主義の破壊行為は『独裁』の名に値します。

2016年「戦争法」が発動されると、日本本土が武力攻撃をされていなくても、海外で自衛隊が武力行使できる国家と変貌するのは目に見えています。一体どこが“平和安全”的法律なのでしょう。安倍政治の暴走です。

署名の請願内容は次の2つです。

- 一、戦争法である「平和安全保障関連法」をすみやかに廃止してください。
- 二、立憲主義の原則を堅持し、憲法9条を守り、いかしてください。

署名用紙は編集部にもありますので活用してください。

■ 「市民連合」発足

2000万署名とともに広がりつつあるのが「野党は共闘」の声です。12月20日、安全保障関連法の廃止を訴える学生団体(シールズ)など五つの市民団体が、2016年夏の参院選で野党系候補を支援する「市民連合」を設立したのです。安保法廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回に賛同する候補者を応援するな

どの活動を行うようです。目指す方向が2000万署名と重なります。私たちも本気で安倍政治に対峙し、安倍政治を終らせるためには野党が選挙協力(全国32の1人区での野党共闘)しなくては実現できないと思います。「あの政党とは手を組めない」といった類いの問題ではなく、今の政治状況がどれほど危機的なものかを認識しなければなりません。立憲主義・民主主義が壊されているときに『政党や政策が違う、程度の問題で野党どうしが争う暇はありません。』『独裁』に終止符を打つこそ急務です。

口さん(82才・男性)からの電話

初めまして。安倍首相の地元、下関に住んでおりました。かつて、郵便局で労働組合活動をしておりました。日本基督教団に属しています。電話をしましたのは、この安倍さんの政治がどうにもならないおかしな方向へと動いていることに大変心を痛めております。以前は下関にもキリスト者同志の平和の会のようなものがあったようですが、現在皆無です。市民による「反戦の会」は立ち上がったのですが、キリスト者もまとまりのある方向で結集できないものでしょうか。(2015.10月)

口さんからの電話をきっかけに2015年は2度の集まりを持ちました。(6~7人)もう動き始めたのです。2016年1月23日(土)14時~しものせき市民活動センターロビーで3回目。集まれば何かが生まれる。市民参加もOKです。参加してみませんか。

お知らせ

2016年 思想・信教の自由を守る2・11集会

いま崩れゆく平和…希望を求めて

～建国記念の日とは・ヘイトスピーチ・日米安保と辺野古～

私たちはどこへ向っているのでしょうか。安倍政権は2015年9月19日、日本の進路を変える「安保法案」を強行採決しました。着実に軍靴の足音が近づいています。武力によらず、平和な社会を築く使命を帯びた私たちキリスト者には、この流れに抗うことが急務です。共に祈り、考え、討議し、希望を見出だす一日にしませんか。みなさまのご参加をお待ちしています。

とき/2016年2月11日(木)
AM10:30~PM3:00 弁当持参

ところ/西南KCC(西南韓国基督教会会館)
小倉北区大田町14-31 駐車場有り。

- 川本良明(教団・小倉日明教会牧師)
“建国記念の日”の由来
- 金 貞子(在日大韓小倉教會長老・西南KCC理事長)
“ヘイトスピーチ 共生の天幕をひろげよう!”
- 瀬下幸弘(カトリック20条の会)
“日米安保と辺野古問題”

*問い合わせ 茶屋明郎 093-771-4329 朱文洪 093-521-7271

琉球新報論説委員・編集局次長がお話しします。

まつもと・つよし

1965年那覇市生まれ。89年琉球新報社に入社し、社会部警察・司法担当、政経部基地担当、経済部副部長などを経て政治部長兼論説委員。2004年の日米地位協定改定キャンペーン「不平等の源流」取材班サブキャップで日本ジャーナリスト会議大賞・石橋湛山記念早稲田ジャーナリスト大賞を受ける。共著に『内心、「日本は戦争をしたらしい」と思っているあなたへ』(角川書店)、『沖縄基地問題を知る辞典』(吉川弘文堂)など。



沖縄・基地問題の深層と民主主義

緊迫する辺野古新基地を軸に

日 時…2016年1月30日(土) 13時30分

場 所…北九州生涯学習センター(3階ホール・小倉北警察署隣)

講 師…松本 剛氏

問い合わせ

参加費…800円(当日受付) 八記久美子080-1730-8895

…これまでにない法廷での闘いになってくると思います。沖縄の問題はまさに日本全体の問題です。手立てをつくして新基地をつくらせないというステージに立つ上で、本土のみなさんの支え、声をあげてくださることが一番沖縄にとっても、立憲主義を守るうえでも、地方自治を守る上でも重要なのです。…アメリカ政府が私を1ヶ月招いたことがあります。そのとき国防省で普天間基地を担当する事務官トップと非公式で懇談をしました。アメリカは、日本政府が辺野古の移設反対が強いのでそれに代る案を考えてくれと言ったらどうなのかと聞いたところ、「軍は政治に従うのが仕事だ。その案はあるのだが、日本政府が日本の税金で造ってあげる、アメリカのふところが痛まない、日本政府がやると言い張っているのでアメリカとしては何も言わない。…」(松本剛2015年北九州市若松区での講演で)

《アムネスティ》下関通信 (2016/1)

2015年の日本のクリスマスは3日続けて新聞一面トップ記事が、「慰安婦」年内妥結関連でした(朝日)。11月の日韓首脳会談が「交渉加速」で一致したため世界の耳目を集めていました。

11/30の「国際アムネスティ公開書簡」です。安倍首相に向けて、「日本は『慰安婦』問題の責任を戦後70年間果たしていない。国際法上の戦争犯罪は賠償する義務がある」。朴槿恵大統領へは「交渉加速を合意した上は、韓国政府は被害者に代って被害者が納得する解決策を要求すべき。日本の象徴的対策『不履行』を繰り返させてはならない」。11/24には「性奴隸犠牲者のための国際議会連合」発足(米、英、カナダ、韓国、ニュージーランド)。

昨日12/26には、年内妥結の政治的な動きに対して日韓の支援団体代表から「全国行動」メンバー宛に次の

ようなメールが届きました。「日本の今回の提案は、今では失敗とされている“女性基金”的延長、被害の象徴“平和の碑”(少女像)の撤去、“二度と「慰安婦」論議を繰り返させない”など、加害国にあるまじき発想と暴言。空疎と言わざるを得ない。今まで経験してきたが、緊急な外交問題に事よせてマスメディア操作による世論作りをしている」と断じています。

クリスマスカードの中に北九州の親友から「アムネのHRS(ヒューマンライツサポーター・人権支援者)に登録しました」の嬉しい一枚もあり、別紙の終りに「キリスト者有志」と印字された10行詩の同封も。「戦争は防衛を名目に始められる/そしてなかなか終えられない/戦争は人殺し~」。

来年もなるべく“一人称のキリスト者”を生きたいと願います。
(2015.12.27 アムネ下関、山県)



消費税と人権・平和を考える

(最終号)

安永 亮 税理士事務所

安永 亮 所長



最終回の今回は、憲法11条・13条と消費税について考えます。

憲法11条 国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる。

憲法13条 すべての国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

この2つの条文を読んで、消費税は？

現在の消費税は、物を買い、サービスを受ける限り、収入の大小、資産の大小に関係なく、収入のない人も、資産のない人も、選択の余地なく、負担し続けなければならない税金です。赤ちゃんからお年寄りまで生きている限り、生涯一律に負担しなければならない消費税が、個人を尊重し、個人の幸福追求の権利を最大限に尊重しなければならない立憲・民主主義国家にふさわしい税金であるのか、ということを考えたいだきたい。

負担能力に応じて税金を負担するという応能負担原則に反する消費税が導入されてから人々の考え方は大きく変化しました。障害者福祉の分野でも、老人福祉の分野でも、医療の分野でも、保育・教育の分野でも、弱者にも同じように負担させる応益負担という考え方方が大手を振ってまかり通るようになりました。

国民の平和的生存権を保障し、誰もが基本的人権を享受して幸福な人生を送れるようにするという国の責務は放棄されてしまったかのようです。何でも自己責任で、格差が拡大しそうが、非正規雇用が増大しそうが、生活困窮者が増え続けようが、小手先の対策でお

茶を濁し、抜本的な対策はなされないまま、いたずらに時間だけが過ぎています。

現行の消費税が導入される以前に消費税がなかったわけではありません。記憶されている読者もいると思いますが、ぜいたく品にだけ課税する「物品税」という名の個別消費税が存在していました。生活向上の時代に即した改正を政府が怠った為に、その内容が時代に合わなくなってしまった点はあります。応能負担という考え方方が生きていたことは事実です。

今、世論調査でも、6割以上の国民が消費税の増税に反対しています。そして、「負担できるところに税金を負担させろ」と考えています。1989年4月に消費税が導入されて2015年度までの27年間の消費税収は304兆円、一方、この間に法人税は大幅に引き下げられ、1989年度と比べた法人3税（法人税・法人住民税・法人事業税）の税収減は合計263兆円です。消費税は何に使われてきたのか？富める者をますます富ますためか？この間、庶民は幸福になり、希望と夢を持てたのでしょうか？

日本の歴史を見ると、1875年から1945年までの70年間は、国内外で自由と人権・民主主義を抑圧する戦争の時代でした。天皇主権の大日本帝国憲法の発布は、1889年です。1946年から2015年までの70年間は、その歴史の反省の上に、国民主権の日本国憲法を守り、武力を行使しない平和で豊かな時代でした。

税金を誰がどのように負担し、何に使うのか、これが国づくりの根本です。これから国づくりを考えるとき、主権者である私たち一人ひとりが真剣に向き合い、考えなければならない根本問題ではないでしょうか？

一年間、拙い文章を読んでいただいたことに感謝申し上げます。

初めての“夢”吊り大橋

大分県九重町



「いつか行ってみたい」そう思いつつ6年以上の年月が、12月25日夢実現。九重ICから20分程で到着。見晴らしもよく、滝も見え絶景でした。

12月5日
アムネスティ下関グループの
ライティングマラソン



みなさまから
届きました

1
エコな
クリスマスツリー



山口県人なのに、行ったことがありませんでした。「これがあの有名な錦帯橋だ」日本人の技術は何とみごとか。



初めての錦帯橋 岩国市
12月16日



12月の紅葉

防府天満宮庭園の紅葉はとってもきれいで驚きました。情緒ある庭園ですよ(F)

みなさまから
届きました

“えっ”これが祈り？？？

「世界ではいろいろな事件が起こっていますが、ここでなくてよかったです。神様のお守りを感謝します。」

このような祈りがありました。自分が安全であれば、それでいい…こんなことを神に感謝するなんて。悲しい。なぜ、しいたげられ、苦しんでいる人々に思いがいかないのかと。思いがいられないから行動しないし、行動する人には「社会問題を教会に持ち込むな」と。

このような考え方を持つ人は、辺野古のことも東北の地震も洪水も、すべて北九州でなくてよかったです、と思うでしょうね。悲しいですね。もし、自分がそのような被害を受けたら、どう祈るのでしょうか。教会が一番厄介なところですね。生活の中に信仰があるのに、そこを切り離している。一体どこで自分の信仰を証しするのでしょうか。(長)



主のご降誕生の およろこびを申し上げます

「共に生きる」を喜んで拝読しております。また周囲の人達に分ち合っておりました。安倍政権の傍若無人ぶりが増々はげしくなってきました。本当に何を考えているのか理解に苦します。…よいお年を。(Sr.倉)

※みなさま、共に生きるの発行カンパをありがとうございます。御礼申し上げます。(編集部一同)

駅構内を走る列車



JR大分駅が新しくなったと聞いて行きました。東西の広場もゆったりして子ども連れの家族でにぎわっていました。構内一階はミニ列車が走っています。(本)

クリスマスと新年おめでとう



毎月送っていただく「共に生きる」や「キリスト者九条の会」「信徒協便り」に力づけられ、こちらでも社会問題を考える会に入れてもらうつもりです。ではよいお年をお迎えください。(Sr.塩)

虹の会

分かち合いのひととき

次回2016年2月28日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

11月29日 15名参加

「あなた方は、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。…、どうか、その歩みを今後もさらに続けてください。」

待降節第一主日第2朗読「パウロのテサロニケの教会への手紙3-12～4-2『神に喜ばれる生活』」をもとに分かち合いました。

「日々、人との交わりの大切さを教えられます」

「今の社会の現実に憂い、「み心のままに」と祈ります。神様に任せると楽になります。」

「『始めの祈り』に引用された永井博士の思いに強く共感します。たとえ最後の一人になんでも”戦争絶対反対”を叫び通したいです。」などが、分かち合われました。

12月27日 14名参加

「無関心を克服し平和の実現を」

—教皇フランシスコ世界平和の日メッセージ—

DVD『となりの難民たち』を観て分かち合いました。日本は国の制度も社会の態勢も不十分なため、難民にとって安住の地ではないことを知り、「難民」と呼ばれる人たちが、日本でどのように暮らしているか、その現実を知ることの大切さを感じました。

「どうぞ私の命を守ってください。ささいな命かもしれません、私にとっては唯一の命です。」というある難民申請者の祈りが心に響きました。

「難民受け入れより、自国の問題が優先と世界に発言した安倍首相の言葉に憤りを覚えた。」「聖書の『よきサマリア人』のたとえを思い出し、キリスト者として難民問題にどう向き合うべきか考えさせられた。」などが話され、考えさせられるひと時でした。(A.N)

歴史問題にみる日中関係

①

『慰安婦』に太陽を



作家・ドキュメンタリー映画監督
班 忠義さん

※文責／編集部

(連続6回)

遼寧省撫順出身。1978年、黒龍江大学日本語学科入学、文学学士取得。1987年に日本へ留学し、翌年上智大学新聞学研究科入学。1992年、文学修士取得。卒業後は作家、ドキュメンタリー映画監督として中国残留孤児の問題に取り組む。1992年「曾おばさんの海」が週刊朝日ジャーナル第7回ノンフィクション大賞を受賞。1993年「国際貢献と日本の役割」で日本外務大臣賞。1994年「人と人間」で毎日新聞賞。著書に「近くで遠い祖国」「ガイサンシートその姉妹たち」他。

リレー『平和への手記』

私は大学を卒業してから中国銀行に勤めました。本社は北京で、遼寧省の支社は大連にあります。大連の街には日本の昔の大和ホテルや横浜銀行があり、ひと月に何回も大連に行きました。大連の街はいつもきれいだなと思います。私のふるさとは撫順で、同じ旧満州ですが、すごく破壊された街のような感じです。炭坑の街で、露天掘りがあり街の真ん中を掘り下げるんです。その隣りにオイルシェールという製油工場を街の真ん中に造つたんですね。それから火力発電所も。なぜ街の中心にこういうものを正直言つて私は縁を見たことがありません。花が赤いという発電所の煤塵も24時間、それが30年間も。街全体が灰色でしたから正直言つて私は縁を見たことがありません。花が赤いとも認識していました。南風が吹くと石油精製工場の臭いがすごく、火力発電所の煙草も24時間、それが30年間も。街全体が灰色でしたから正直言つて私は縁を見たことがありません。花が赤いとも認めたことがあります。それでも、街全体が日本という感じですね。瀋陽も長春も、街はほとんどが日本の建物ですね。ルーツがあります。そういうような街で、暗い気持ちがずっとありました。そして、きょう下関の海から中国大陸側に目をやると、昔を思い出すような、日本が大陸で何をしたのかということを考えました。最初、中国大陸へ200万の軍隊を送り出しましたね。あのとき「やつつけろ」という怒りと興奮などいろいろな気持ちがあつたんですね。そして、終戦になつて引揚船とか暗い苦しいこともあつたこの街(下関)。では逆に向こう側にいた私たちは、どうなつっていたのだろうかという思いも…。(撫順の村民惨殺写真を指して)私は小学2年生のときこれを見ました。今は陳列されていますが、日本人も中国人も実はよく調べていません。いわゆる戦争教育といつても撫順へはだれも来ないんです。これは3000人の住民が、日本軍から殺され埋められて、



平頂山殉難同胞遺骨館

1932年、関東軍が中国人村民を虐殺したことを平頂山事件とよぶ。

文化大革命のとき掘り起こされて陳列されたものです。このような暗い歴史をわれわれは知らないでいいと言つたなら、実はこれが繰返されるんです。(続く)

編 集 後 記

「慰安婦」問題、日韓が合意…年末の大ニュースです。安倍首相が「心からおわびと反省の気持ちを表明する」と朴大統領に伝えたとも。ところが合意文書もなく「慰安婦問題が最終的かつ不可逆的に解決されることを確認」したらしい。どうも腑に落ちません。被害者が排除されています。「不可逆的」の言葉がそれです。真の解決は文言より心底からの回心が必要です。またなぜこの問題が起きたのか、戦争責任を明らかにするため歴史を「可逆的」に見て真相究明をしなければ。少なくとも加害国政府が使う言葉ではないはず。歴史を直視されたくない思惑が既に見えています。(瀬下)